

xy 平面において、原点 $O(0, 0)$ とは異なる点 P に対し、 Q を半直線 OP 上において、 $OP \times OQ = 1$ を満たす点とする。また、 $a > 0$ に対し、中心 $(a, 0)$ 、半径 b の円を C とする。

- (1) C が原点を通るとする。 P が C 上の原点とは異なる点全体を動くとき、点 Q の軌跡を求めよ。
- (2) C が原点を通らないとする。 P が C 上の点全体を動くとき、点 Q の軌跡を求めよ。

(17 愛知教大 4)

【答】

(1) 直線: $x = \frac{1}{2a}$

(2) 円: $\left(x - \frac{a}{a^2 - b^2}\right)^2 + y^2 = \frac{b^2}{(a^2 - b^2)^2}$

【解答】

点 Q は O を除く半直線 OP 上にあるから、 $OQ \neq 0$ であり

$$\vec{OP} = OP \frac{\vec{OQ}}{OQ}$$

である。さらに、 $OP \times OQ = 1$ を満たすから

$$\vec{OP} = \frac{1}{OQ^2} \vec{OQ}$$

$P(x, y)$, $Q(X, Y)$ とおくと

$$x = \frac{X}{X^2 + Y^2}, \quad y = \frac{Y}{X^2 + Y^2} \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

である。

また、点 P は $C: (x-a)^2 + y^2 = b^2 \dots\dots \textcircled{2}$ 上を動くから、点 Q の軌跡は「 $\textcircled{1}$ かつ $\textcircled{2}$ 」を満たす点 (x, y) が存在するような点 (X, Y) の集合である。すなわち

$$\left(\frac{X}{X^2 + Y^2} - a\right)^2 + \left(\frac{Y}{X^2 + Y^2}\right)^2 = b^2$$

$$\frac{1}{X^2 + Y^2} - \frac{2aX}{X^2 + Y^2} + a^2 - b^2 = 0 \quad \dots\dots \textcircled{3}$$

である。

(1) C は原点を通るから

$$(0-a)^2 + 0^2 = b^2 \quad \therefore a^2 = b^2$$

このとき

$$\textcircled{3} \iff \frac{1-2aX}{X^2 + Y^2} = 0$$

$a > 0$ より

$$X = \frac{1}{2a}$$

点 Q の軌跡は直線 $x = \frac{1}{2a}$ である。

$\dots\dots$ (答)

(2) C は原点を通らないので, $a^2 \neq b^2$ である.

$$\textcircled{3} \iff 1 - 2aX + (a^2 - b^2)(X^2 + Y^2) = 0$$

$$\iff \frac{1}{a^2 - b^2} - \frac{2aX}{a^2 - b^2} + X^2 + Y^2 = 0$$

$$\therefore \left(X - \frac{a}{a^2 - b^2} \right)^2 + Y^2 = \frac{b^2}{(a^2 - b^2)^2}$$

点 Q の軌跡は 中心 $\left(\frac{a}{a^2 - b^2}, 0 \right)$, 半径 $\frac{b}{|a^2 - b^2|}$ の円である. ……(答)

- P に対し $OP \times OQ = (\text{一定})$ となるように Q を対応させる変換は反転 (inversion) と呼ばれている. 反転によって, 原点を通る円は原点を通らない直線に, 原点を通らない円は原点を通らない円にうつることが分かった.